

令和3年度 第1回壬生町総合教育会議 議事録

1 日 時 令和3年10月25日(月) 午後3時30分から

2 場 所 生涯学習館(講堂)

3 出席者 町 長 小菅 一弥
教育長 田村 幸一
委 員 池 節子
委 員 藍田 収
委 員 大久保 信男
委 員 宇賀神 真佐江

4 出席者及び傍聴人を除くほか、会議に出席した者の氏名

副町長 櫻井 康雄
総務部長 人見 賢吉
総務課長 佐々木 正裕
総合政策課長 大垣 勲
教育次長 池田 茂
学校教育課長 赤羽根 和男
学校教育課主幹兼指導主事 佐々木 一孝
学校教育課課長補佐兼指導主事 川田 征司
学校教育課課長補佐兼指導主事 森 弥生
学校教育課主幹兼学校教育係長 大橋 由孝
学校教育課主幹兼庶務係長 堀 靖久

5 傍聴人 な し

6 協議事項

- (1) 壬生町におけるオンライン授業の成果と課題
- (2) ゆうがお English イノベーションスクール事業について

7 議 事

【開会】(午後3時30分)

教 育 次 長： ただいまから、令和3年度第1回壬生町総合教育会議を開会いたします。
初めに、小菅町長よりあいさつをお願いします。

町 長： 皆様こんにちは。お忙しい中、当会議に御出席いただきましてありがとうございます。
とうございます。

忌憚のないご意見をいただき子どもたちの将来を導いてあげていただきたいと思います。本会議は去年は2回開催しました。今回の会議については去年の議題の成果も含まれてます「壬生町におけるオンライン授業の成果と課題」「ゆうがお English イノベーションスクール事業について」を議題としておりますので忌憚のないご意見をいただきたいと思いますのでよろしくをお願いします。

以上私からの挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

教育次長： ありがとうございます。それでは、会議に入りたいと思います。会議の進行は運営要綱第5条により町長が議長となりますので、進行をお願いいたします。また、この会議は、原則公開、また議事録も作成いたしますので、発言をする際には挙手をしてから、発言していただきますようお願いいたします。それでは町長をお願いします。

町長： それでは、会議を始めさせていただきます。まず、協議事項(1)の「壬生町におけるオンライン授業の成果と課題』について」を、川田指導主事より説明をお願いします。

川田指導主事： 資料及び画像により「壬生町におけるオンライン授業の成果と課題」を説明。

町長： ただ今、川田指導主事より説明がありましたが、9月の臨時休業時におけるオンライン授業については、私も実際に学校現場を視察し先進的な取り組みを間近で見ることができ、先生方の努力に感心いたしました。スタジオ的で役割分担がしっかりできており、いい授業を作り上げるという熱意を感じました。ご父兄からはお褒めの言葉が多いですが、委員の皆様から今後の改善につながるようなご質問・ご意見がございましたら、挙手にてお願いいたします。

池委員： このオンライン授業が成功した要因は、去年のうちにタブレットの配布が完了したこと、そしてそれに伴って先生たち・子どもたちが授業を展開してきたということはとても大きなことだと思います。また、週末に週末を持ち帰っていたという前段階があったからこそ、オンライン授業にもっていくことができた町に感謝申し上げます。今回オンライン授業を拝見させていただいて、先生たちがとても工夫されていて、裏ではかなりご苦労があったと思いますので感謝いたします。今後インフルエンザやコロナの再流行で休校となった場合にすぐ役に立つのではないかと思いますので、これまでの経験を生かしてよりよい授業の展開を期待しております。プラス面だけでなくマイナス面もあったと思いますのでよく検証していた

だき、今後に繋げていただきたいと思います。保護者の意見だけではなく先生方の意見も取り入れながら、より良い授業展開を進めてもらいたいと思います。

タブレットではなくカメラを動かして画面に表示させることができれば先生方も動きやすいと思いました。オンラインの時はマスクを外してもいいのではと思いました。

町 長： 先生方のご意見という話がありました但事務方の先生から報告願いますか。

佐々木指導主事： 今回のオンライン授業について先生方には、非常に前向きに取り組んでいただいたところです。大規模校中規模校については、チームを組んで役割ごとに回せましたが小規模校では一人で色々な役割をこなさなければならなかったので、負担が大きかったような声を聞いています。オンライン授業開始当初は、機器操作で家庭からの問い合わせもあったので今後そういう問合せに対応する職員も役割として考えたいという声もありました。

町 長： 学校規模によって先生方の負担が違ふ。機器が動かない時はまず学校へ電話すると対応できる先生は一人しかいないから大変だったような声を聞いているので、その辺を予測しながら手を打っていく必要があると思いますがそれについて何かご意見はありますか。

池 委 員： 先程学童保育も出ていましたが学童保育に出ているお子さんもとて多いので授業についていけない子も出てくるのかなということと、特に働いている親の家庭で子どもだけで端末操作をするということが学校側の負担と鑑みてうまくバランスを取れるといいのかなと思うのですが、知恵を出し合うといい方向に向かうのではないのでしょうか。

町 長： 学童保育の話がありました但、私も学童保育の指導員から大変だという声を何件か聞いています。皆さん方で何かそういう話を聞いていれば生の声を出していただいて改善していければと思います。

藍 田 委 員： 壬生型オンライン授業という言葉があるように、他の市町より壬生のオンライン授業は優れているという風に思っております。ただこの成果を持続させることが大事だと思います。コロナの状況が悪化したからオンライン授業ということではなくて、普段からいつでもオンライン授業ができる対応が大切だと思います。対面授業が主、オンライン授業が従と思いますが、通常の教育活動の中でもコロナの状況に関わらずオンライン授業を取り入れてみてはどうかというのが私の提案です。

町長： 平常時においてもオンライン授業を行い進化させるべきだという事だと思いましたが、大久保委員のご意見はいかがでしょうか。

大久保委員： コロナ禍でのオンライン授業は、何もしなければ休校ということになってしまったので、タイムリーで良かったと思います。先生たちの努力の結果が表れて保護者からもよかったとの声が多かったと思います。中には低学年の子はどうしても集中力がなくなってしまい親が大変だったという方もいたようです。目が疲れる等、色々課題があったと思いますが何かあった際にすぐできるよう平常時もオンライン授業をやっていたらいいと思います。

町長： 宇賀神委員さん、何かご意見等ございますか。

宇賀神委員： 子どもたちにとっても先生たちにとっても実りのあるオンライン授業だったと思います。定期的にオンライン授業を行って、いざという時に備える必要性も感じたところです。特に低学年の子がいる共働きの方のところは、ログイン状況や時間の管理に心配があったけど仕事があり面倒を見れなかったという方がいたので検討が必要と思いました。あとは、目が疲れるというところでも、集中すると画面に目を近づける傾向があるので、姿勢を正す声掛けが必要と思いました。

町長： 今までの質問に対し赤羽根課長答弁願います。

赤羽根課長： カメラについてはタブレット側でアウトカメラ・インカメラとありますので、それに対応していただければと思います。またマスクについては各家庭からの接続ですのでマスクを外してオンライン授業という方が先生・生徒お互いの表情もわかりますので、よかったのかなと思います。タブレット更新については現在のところ国の予算が付くような要望はありますが、県に確認したところ更新時期じゃないとわからないということで不透明な状況です。また共働き世帯への配慮につきましては対応が難しいです。子どもだけになってしまう場合、学校へきてのオンライン授業も可能とアナウンスし、学校でオンライン授業を受けた方もいましたので、その点ある程度は配慮したと思います。どんどん学校へきていいですよとなると、オンライン授業の意味がなくなってしまうのでその加減が難しかったです。目の疲労については、タブレット導入当初から言われていたことですが、学校へは休み時間等に遠くを見るように指導はしていましたが、家庭でのオンライン授業ではそれが徹底できず、目の疲労から頭痛が発症した例もありましたので今後の課題と思います。

町長： 副町長、総務部長から意見があればお願いします。

副 町 長： オンライン授業については県内でも最先端ということで壬生のPRにもなりました。色々ご意見がありましたがコロナだからオンライン授業ではなく、これからコロナ以外の色々な組み合わせでの使い方ができると思うので、それが壬生の伸びしろではないかと思います。

総 務 部 長： 学童の対応について統一的なオンライン授業は困難がきまとうのでその辺の整理が課題と感じました。また機械的な装置が絡むと一方通行的な無機質感があると思っておりましたが、学校家庭間で有機的に活用できたのは良かったと思いました。

町 長： 教育長から総括的に何かございますか。

教 育 長： 貴重なご意見ありがとうございました。その中で通常の授業でもオンライン授業をやったらどうかというご意見がありましたが、今のところ対面授業には敵わないという理由で文科省では認められていない状況ですので、平常時のオンライン授業はなかなか難しいところです。また学童の問題ですが、時間割が今回10校全部ばらばらになってしまい、休み時間もまちまちのため複数のお子さんがある家庭や学童保育では大変だったと聞いています。次にこのようなことがあれば時間割を10校統一すれば、各家庭での負担も大分軽減できるのではと思います。

町 長： いろいろなご意見、ありがとうございました。児童生徒1人1台のタブレットの配置が令和2年10月に完了し、タブレットを有効に活用できるように基盤的整備を進めるとともに、学校現場においてもオンライン授業を試験的に実施したり、家庭での学習にタブレットを持ち帰ったりした事前の準備が今回のオンライン授業の成功につながったと思います。町では今年度全小中学校に10ギガの超高速インターネット回線の整備を進めております。

これにより、全校生徒が一斉にインターネットを活用した調べ学習を行えるなど円滑な通信環境の整備が図られます。

それでは、協議事項2の「ゆうがお English イノベーションスクール事業について」森指導主事より説明をお願いします。

森指導主事： 資料及び画像により「ゆうがお English イノベーションスクール事業について」を説明。

町 長： ただ今、森指導主事より説明のありました「ゆうがお English イノベーションスクール事業について」、何かご質問・ご意見はございませんか。

池 委 員： 子ども一人一人がネイティブな英語に触れることができる素晴らしい

プランと思います。英会話と英単語の学習の住みわけがわかりにくいのと、ネイティブの英語はどここの国なのかが、重要なポイントかなと思います。英検の補助は子どもたちのやる気が上がっていいのではないかと思います。

藍田委員： 論語教育・ICT教育・英語教育を壬生の教育の3本柱として発展を図ってほしいと思います。中学校3年生までどの程度の英語を身に付けさせるか、例えば英語検定において目標を設定するのはいかがでしょうか。

大久保委員： 壬生は英語教育の先駆けになるのかなと思いました。英語を聞く力がないので、単語一つ一つはわかるけれど繋げると何を言ってるのかわからないということで、若いうちからネイティブな英語に触れるのは有効と思います。ただ中にはついていけない子も出てくると思うので、そういう子をどうするかが課題と思います。

宇賀神委員： 少子高齢の時代で日本だけでは働き手の確保が難しい中、海外からの労働力を確保する企業が増えているので、日常的に英会話ができないといけない時代がくるのかなと思うので、生徒全員が平等に英語に触れる機会があるのは良い取り組みと思います。

町長： 各委員からの質問について事務局より回答をお願いします。

森指導主事： オンライン英会話については対象は中学生のみで考えております。その英会話を支えるものとしてE-BOARDや天才英会話の活用を検討しています。それらにより語彙力や英文法の向上が期待できます。併せて話すことだけでなく英語の5要素といわれている聞く・話す・やりとりの発表・読む・書くの能力向上につながると考えています。到達目標については今後検討していきたいと思います。

赤羽根課長： 事業費についてですが、全ての事業を実施した場合2,300万円程度かかると試算しています。

町長： 先程池委員からどこの国の講師を予定しているかという話がありましたがその点はどうでしょうか。

森指導主事： 講師の決定はこれからですが、最近のALTの出身国はアメリカ、イギリス、フィリピンが多いのでおそらくその辺の方が講師になると思います。

町長： 日本の教育では大学生まで勉強しても英語がしゃべれない・聞けないということを壬生では何とかしていこうということですが、この点について何かございますか。

副町長： 一般企業では、いきなり翌日に外国へ行かされるような時代なので、

これからの子どもたちは使える英語が必要と感じています。ここで事業について補足させていただきたいと思います。執行部としては来年度全ての事業が完成するのは難しいと考えております。どうしても財源に限りがあることから、その辺はこれから検討していく必要があるということになります。天才英単語等は無料で実施できますが、ネイティブ講師との英会話が目玉となってきますが、それがどの辺で実現できるかが主要な検討内容となります。町の予算だけでやっていくのは難しい状況ですが、国際人を育てるということは企業にとってもプラスなことですので、社会や企業を巻き込んでこの事業を実施したいということで『企業版ふるさと納税』を活用していきたいと考えております。

町 長： もし途中で寄附をいただいていた企業が降りてしまった場合でも、来年はやらないというわけにはいかないの町で予算化して継続する必要性があるので内部でしっかり検討し来年度予算編成に取り組みたいと思います。

教 育 長： 先程、藍田委員より論語・ICT・英語で教育の3本柱にというお話がありました。論語で心を作り、コンピューターと英語を活用することでこれからの時代を引っ張っていく素晴らしい人材が壬生町から輩出できるのではないかと考えておりますので是非成功させたいと思っています。

池 委 員： 天才英単語や英検補助など出来ることから実施し、壬生はこれだけ英語教育に取り組んでいるという実績を基に企業に対しふるさと納税で拠出してくださいという話に持っていくのがいいのかなと思いました。

町 長： いろいろなご意見、ありがとうございました。新規の事業立ち上げとなりますので、今後、詳細を詰めていかななくてはならないことがたくさんあります。今のご意見等を踏まえて事務局は、事業実施に向けて関係各課と準備を進めていきたいと思っておりますのでよろしく願いいたします。

以上で協議を終了します。司会を事務局に戻します。

教 育 次 長： 町長、円滑な議事進行ありがとうございました。ここで、協議内容以外になにかございましたら、お願いしたいと思っておりますが、何かございますでしょうか。

それでは、ないようでございますので、以上をもちまして、令和3年度第1回壬生町総合教育会議を閉会いたします。お忙しいところありがとうございました。

【閉会】(午後5時15分)